

第 45 回宇都宮市民芸術祭 写真部門 審査総評

第 45 回宇都宮市民芸術祭写真部門におきまして、応募総数 315 点と多くの写真愛好家の方々が出品してくださいました。5 月の第 1 次審査で入選 147 点を決定し、第 2 次審査を 6 月 26 日に実施し多岐に渡る分野から慎重かつ厳正に審議いたしました。

また、広く多くの方々に入賞のチャンスがあるようにと審査いたしました。

全体として、完成度の高い作品が多くみられたことを嬉しく思います。現在のような日本経済の中で円安の影響により海外での作品が少なくなり、日常の身近な光景やお祭りなどを、瞬間的に切り取った魅力ある作品が多くみられ、大切に撮影されていることに対して好感が持てます。

多くの様々な作品を鑑賞して今後の作品作りの参考にさせていただき、表現の幅を広げるように日々の撮影に精進していただきたいと思います。

今回の写真展を踏まえ、来年も素晴らしい作品に出会えることを、審査員一同、期待して総評とさせていただきます。

《市民芸術祭賞 「赤い橋」 笠原 正人さん》

作品全体の中に締める赤い橋のラインのインパクトがとてもいい作品であり、さらに橋を走る 1 台の白い車がポイントとしてとても素晴らしいと思います。撮影の時、この 1 台が来ることをどれほどの時間を掛けて待ちかねたことでしょう。

水墨画のような風景に、人工物としての橋と車、色としてみると、黒と赤と白のバランス。良く計算された、完成度の高い素晴らしい作品と思います。

《準市民芸術祭賞 「祭りの少女」 小林 トミ子さん》

古い列車の中に着飾った笑顔の少女が 2 人。狭い空間の中を良く纏め上げた作品といえると思います。コロナも 5 類に移行し早 1 年が経過しました。多くの地域で祭りも復活し、スナップ写真撮影の機会も増えてきました。スナップ写真の評価は昔から揺るぎません。益々チャンスを生かして撮影していただきたいと思います。

《準市民芸術祭賞 「大海への冒険」 高野 敦子さん》

カマキリへのピントの良さと背景の流れる色彩の纏め方は素晴らしいものがあります。

ライティングを始めとして、独特の工夫をこらした作品といえます。安定感のある構図の中の「静と動」の要素を持つ作品と思います。

色としての纏め方も実に良い作品です。丁寧な仕上がりを見せており、作者の作品作りの姿勢が感じられる 1 枚だと思います。

審査長 渡邊 昇